

三井住友海上プライマリー生命の「投資型年金」

# ダブルウィング

変額個人年金保険（災害死亡 30%型）

## 特別勘定運用レポート

### （組入投資信託の運用状況）

特別勘定の名称	投資信託の名称	投資信託の運用会社	ページ
日本株式アクティブA	フィデリティ・日本成長株・ファンドVA4	フィデリティ投信株式会社	1
日本株式アクティブB	フィデリティ・日本小型株・ファンドVA4		2
日本株式インデックスA	日本株式インデックス・ファンドVA1	ステート・ストリート・グローバル・ アドバイザーズ株式会社	3
外国株式インデックスA	外国株式インデックス・ファンドVA1		4
ジャナス外国株式 ストラテジック	ジャナス・ストラテジック・バリュー・ ファンド	ジャナス・キャピタル・トラスト・マネジャー・ リミテッド	5
ジャナス外国株式 フォーティ	ジャナス・フォーティ・ファンド		6
外国債券インデックスA	外国債券インデックス・ファンドVA1	ステート・ストリート・グローバル・ アドバイザーズ株式会社	7
ジャナス外国債券 フレックス	ジャナス・フレキシブル・インカム・ファンド	ジャナス・キャピタル・トラスト・マネジャー・ リミテッド	8
ジャナス外国債券 ハイイールド	ジャナス・ハイイールド・ファンド		9
SMAM・バランス25 SMAM・バランス50 SMAM・バランス75	SMAM・バランスファンドVA25 SMAM・バランスファンドVA50 SMAM・バランスファンドVA75	三井住友DSアセットマネジメント株式会社	10
マザーファンドの状況			11
ジャナス・バランス	ジャナス・バランス・ファンド	ジャナス・キャピタル・トラスト・マネジャー・ リミテッド	13
グローバル不動産投信	ジャナス・グローバル・リアルエステート・ ファンド		14
マネーA	フィデリティ・マネー・プールVA	フィデリティ投信株式会社	15

三井住友海上プライマリー生命

MS&amp;AD INSURANCE GROUP

# 特別勘定運用レポートをご覧くださいにあたって

## 当資料をご覧ください際にご留意いただきたい事項

- ・当資料は既に当商品にご加入されたご契約者に対し、三井住友海上プライマリー生命のダブルウィング〔変額個人年金保険（災害死亡30%型）〕の特別勘定および特別勘定が主たる投資対象とする投資信託の運用状況を開示するためのものです。なお、商品の詳細につきましては、商品パンフレット、「ご契約のしおり・約款」、「特別勘定のしおり」をご覧ください。
- ・当資料に記載されている運用実績等に関する情報は過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、〔組入投資信託の運用状況〕に記載されているコメント等は当資料作成時点の見解に基づくものであり、予告なく変更されることがあります。
- ・〔組入投資信託の運用状況〕は、運用会社が作成する運用報告を三井住友海上プライマリー生命が参考情報としてそのまま提供するものであり、内容に関しては、三井住友海上プライマリー生命の責めによるものを除き、三井住友海上プライマリー生命は一切の責任を負いません。

## この保険商品についてご確認ください事項

### ■市場リスクについて

この保険は、払込みいただいた保険料を投資信託等を投資対象としている特別勘定で運用し、その運用実績に基づいて将来の死亡保険金額、解約払戻金額、および年金額等が変動（増減）するしくみの生命保険商品です。特別勘定の資産は、主に国内外の株式・債券等に投資する投資信託を通じて運用されるため、株価や債券価格の下落、為替の変動等により、解約払戻金等のお受取りになる合計額が払込まれた保険料を下回る可能性があり、損失が生じるおそれがあります。これらの特別勘定の運用に伴うリスクはすべてご契約者に帰属します。

### ■ご負担いただく費用について

この保険では、保険関係費および資産運用関係費等をご負担いただきます。また、一定期間内にご契約を解約・一部解約する場合には、所定の解約控除がかかります。詳しくは次ページ「諸費用について」をご参照ください。

### ■その他

- ・変額個人年金保険は特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、ご契約者が投資信託を直接保有するものではありません。
- ・特別勘定のユニットプライスの値動きは、特別勘定が投資対象とする投資信託の値動きと必ずしも一致しません。これは、特別勘定が投資信託のほかに保険契約の異動等に備えて一定の現預金を保有することがあることや、ユニットプライスの計算に当たり保険関係費等の費用を控除すること等によるものです。

## 諸費用について

この保険の費用の合計は、以下の費用の合計額となります。

### 積立期間中にご負担いただく費用

#### 1. すべてのご契約者にご負担いただく費用

下記の費用を控除した上で、ユニットプライスは計算されます。

項目	目的	費用	時期
保険関係費	当保険契約の締結および維持などに必要な費用ならびに死亡保険金・災害死亡保険金等を支払うための費用	積立金額に対して年率 2.30%	積立金額に対して左記の年率の 1/365 を乗じた金額を毎日控除します。
資産運用関係費	投資信託の信託報酬など、特別勘定の運用にかかわる費用	特別勘定ごとに異なります。詳しくは下記をご覧ください。	各特別勘定の資産残高に対して所定の年率の 1/365 を乗じた金額を毎日控除します。

特別勘定の名称	資産運用関係費 (消費税込 年率)	特別勘定の名称	資産運用関係費 (消費税込 年率)	特別勘定の名称	資産運用関係費 (消費税込 年率)
日本株式アクティブ A	1.298%程度	ジャナス外国株式フォーティ <sup>*1</sup> <sub>*2</sub>	1.5%程度 <sup>*4</sup>	SMAM・バランス 50 <sup>*6</sup>	0.33%程度
日本株式アクティブ B	1.408%程度	外国債券インデックス A	0.308%程度	SMAM・バランス 75 <sup>*6</sup>	0.33%程度
日本株式インデックス A	0.275%程度	ジャナス外国債券フレックス <sup>*1</sup>	0.85%程度 <sup>*4</sup>	ジャナス・バランス <sup>*1</sup>	1.25%程度 <sup>*4</sup>
外国株式インデックス A	0.418%程度	ジャナス外国債券ハイイールド <sup>*1</sup>	1%程度 <sup>*4</sup>	グローバル不動産投信 <sup>*1</sup> <sub>*3</sub>	1.25%程度 <sup>*4</sup>
ジャナス外国株式ストラテジック <sup>*1</sup>	1.5%程度 <sup>*4</sup>	SMAM・バランス 25 <sup>*6</sup>	0.33%程度	マ ネ ー A	0.00935%~0.55%程度 <sup>*5</sup>

- \* 1 2005年7月1日より追加設定されました。 \* 2 2017年12月15日、「ジャナス外国株式トゥエンティ」より名称変更されました。  
 \* 3 2007年7月1日、「ジャナス米国不動産投信」より名称変更されました。  
 \* 4 資産運用関係費は、特別勘定が主な投資対象とする投資信託にかかりますが、当該投資信託は外国投資信託であるため、国内では消費税はかかりません。  
 \* 5 前月の最終営業日を除く最終5営業日間における無担保コール翌日物レートの平均値に応じた率を用いて毎月ごとに決定するため、上限と下限のみを記載しております。  
 \* 6 2015年12月14日、「レグ・メイソン・セレクト 30 / 50 / 70」より変更されました。



ご注意

- 資産運用関係費は信託報酬（管理報酬）を記載しています。その他、信託財産留保額、有価証券の売買手数料、運用関連の税金、監査費用等がかかる場合がありますが、費用の発生前に金額や割合を確定することが困難なため表示することができません。これらの費用は特別勘定がその保有資産から負担するため、特別勘定のユニットプライスに反映されることとなります。したがって、お客さまはこれらの費用を間接的に負担することとなります。
- 資産運用関係費は、運用手法の変更、運用資産額の変動等の理由により、将来変更される可能性があります。

#### 2. 下記のお取扱いの場合に別途ご負担いただく費用

特別勘定のユニットプライスを計算した後に特定の契約者にご負担いただきます。

項目	費用	時期
積立金移転手数料	1 保険年度に 15 回目までは無料 1 保険年度 16 回目以後の移転について 2,500 円/回	移転時に積立金から控除します。
貸付利息	契約者貸付を受けるとき 貸付金額に対して年率 2.30%	年ごとの契約応当日に積立金から控除します。
解約控除	解約するとき 経過年数に応じて、 払込保険料総額に対して 1~8%	解約時・一部解約時に積立金から控除します。
	一部解約するとき 経過年数に応じて、 一部解約請求金額に対して 1~8%	

※ 一部解約請求金額が払込保険料総額を上回る場合には、解約控除対象額は払込保険料総額を上限とします。一部解約の際に解約控除対象額として取扱われた金額については、以後の解約控除対象額の計算の対象とする払込保険料総額から控除して取扱います。

※ 契約日（増額日）から 10 年未満で一般勘定で運用する定額年金へ変更した場合には、契約日（増額日）からの経過年数に応じた解約控除がかかります。

<解約控除率>

契約日(増額日)からの経過年数	1年未満	1年以上 2年未満	2年以上 3年未満	3年以上 4年未満	4年以上 5年未満	5年以上 6年未満	6年以上 7年未満	7年以上 8年未満	8年以上 9年未満	9年以上 10年未満	10年以上
解約控除対象額に対する解約控除率	8%	8%	7%	7%	6%	5%	4%	3%	2%	1%	0%

#### 年金支払期間中にご負担いただく費用

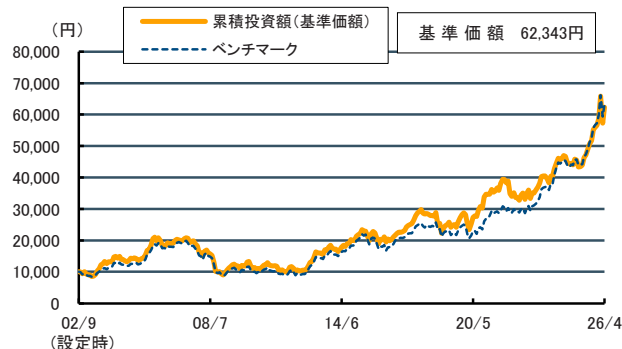
下記の年金管理費を年金支払開始日以後にご負担いただきます。（遺族年金支払特約による年金も含みます。）

項目	費用	時期
年金管理費	年金額に対して 1%	年金支払開始日以後、年金支払日に責任準備金から控除します。

※ 上記費用は上限です。なお、年金支払開始日時時点の費用を年金支払期間を通じて適用します。

- ① 主として日本株を投資対象とします。  
 ② 個別企業分析により、成長企業を選定し、利益成長性等と比較して妥当と思われる株価水準で投資を行いません。

## 設定来の運用実績 (2026年4月30日現在)



※累積投資額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの収益分配金を再投資した実績評価額です。ただし、購入時手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。ベンチマークはファンド設定日前日を10,000円として計算しています。※基準価額は運用管理費用控除後のものです。※当該実績は過去のものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

## コメント (2026年4月30日現在)

当月の東京株式市場は、中東情勢の早期沈静化への期待に加え、米国の半導体関連株の好調な推移を背景に上昇しました。特に人工知能(AI)・半導体関連銘柄が主導した日経平均株価は史上最高値を更新しました。月初は、中東での衝突が早期に終結に向かうとの見方や、米国における半導体関連株の好調な推移を受けて、株価は反発して始まりました。その後は中東情勢を巡る報道に左右される展開が続いたものの、米国とイランが即時停戦で合意したとの報道を受け、株価は大きく上昇しました。加えて、台湾の半導体大手による良好な決算発表を契機に、月初から堅調であったAI・半導体関連株の上昇が一段と加速し、これらの銘柄の寄与度が高い日経平均株価は騰勢を強め、27日には終値ベースで史上初となる6万円台に到達しました。一方で、ホルムズ海峡の事実上の封鎖が継続するなど、中東情勢の先行き不透明感は払拭されず、原材料価格の上昇や石油由来製品の供給不安への懸念が相場の重石となり、月後半のTOPIXは相対的に伸び悩む展開となりました。さらに月末にかけては、日米の長期金利上昇も株式市場の上値を抑制しました。月間の騰落率は、TOPIX(配当込)が+6.57%、日経平均株価は+16.10%でした。

※上記コメントは、資料作成時点におけるもので将来の市場環境等の変動等を保証するものではありません。

## ポートフォリオの状況 (マザーファンド・ベース)

資産別組入状況		市場別組入状況		組入上位5業種	
株式	97.7%	東証プライム	96.7%	電気機器	19.2%
新株予約権証券(ワラント)	-	東証スタンダード	0.7%	銀行業	12.8%
投資信託・投資証券	-	東証グロース	0.3%	卸売業	8.7%
現金・その他	2.3%	その他市場	-	輸送用機器	6.8%
				建設業	6.3%

(対純資産総額比率)

- \* 各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。  
 \* 業種は東証33業種に準じて表示しています。  
 \* 未払金等の発生により「現金・その他」の数値がマイナスになることがあります。

当資料は、情報提供を目的としたものであり、ファンドの推奨(有価証券の勧誘)を目的としたものではありません。本資料に記載の内容は将来の運用結果等を保証もしくは示唆するものではありません。当資料は、信頼できる情報をもとにフィデリティ投信が作成しておりますが、厳密な意味での正確性・完全性について当社が責任を負うものではありません。上記情報は、作成時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。

商品概要	
形態	追加型投信/国内/株式
投資対象	わが国の株式等
設定日	2002年9月20日
信託期間	原則無期限
決算日	原則、毎年11月30日(休業日のときは翌営業日)

累積リターン (2026年4月30日現在)						
	直近1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
ファンド	8.89%	5.95%	12.73%	42.01%	68.64%	523.43%
ベンチマーク	6.57%	5.56%	13.17%	43.01%	94.43%	532.35%

※累積リターンは、収益分配金を再投資することにより算出された収益率です。

※ベンチマーク: TOPIX(配当込)

\* TOPIX(配当込)は、日本の株式市場を広く網羅するとともに投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により算出されており、配当を考慮したものです。

\* 東証株価指数(TOPIX) (以下「TOPIX」という。)の指数値及びTOPIXに係る標章又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利・ノウハウ及びTOPIXに係る標章又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、TOPIXの指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。

## 過去5期分の収益分配金(1万口当たり/税込)

第20期(2021.11.30)	0円
第21期(2022.11.30)	0円
第22期(2023.11.30)	0円
第23期(2024.12.02)	0円
第24期(2025.12.01)	0円

純資産総額 0.5億円 (2026年4月30日現在)

組入上位10銘柄 (マザーファンド・ベース) (2026年3月31日現在)			
	銘柄	業種	比率
1	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	4.6%
2	日立製作所	電気機器	4.3%
3	トヨタ自動車	輸送用機器	3.4%
4	みずほフィナンシャルグループ	銀行業	3.4%
5	三井物産	卸売業	3.1%
6	伊藤忠商事	卸売業	2.8%
7	三菱電機	電気機器	2.4%
8	ソニーグループ	電気機器	2.3%
9	横浜フィナンシャルグループ	銀行業	2.3%
10	きんでん	建設業	2.3%

(組入銘柄数: 173) 上位10銘柄合計 30.9% (対純資産総額比率)

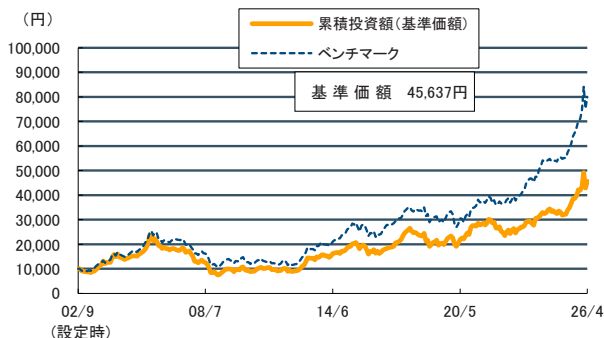
特別勘定の名称：日本株式アクティブB

## フィデリティ・日本小型株・ファンドVA4

ダブルウィング

- ① 日本国内の比較的規模の小さい企業の株式を主要な投資対象とします。
- ② 個別企業分析により、比較的規模の小さい高成長企業を選定し、利益成長性等と比較して妥当と思われる株価水準で投資を行ないます。

## 設定来の運用実績 (2026年4月30日現在)



※累積投資額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの収益分配金を再投資した実績評価額です。ただし、購入時手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。ベンチマークはファンド設定日前日を10,000円として計算しています。(設定から2003年8月末までは東証第二部株価指数(配当金込)、2003年9月から2009年2月末まではRussell/Nomura Small Capインデックス(配当金込)を連続させて指数化しております。)※基準価額は運用管理費用控除後のものです。※当該実績は過去のものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

## コメント (2026年4月30日現在)

当月の東京株式市場は、中東情勢の早期沈静化への期待に加え、米国の半導体関連株の好調な推移を背景に上昇しました。特に人工知能(AI)・半導体関連銘柄が主導した日経平均株価は史上最高値を更新しました。

月初は、中東での衝突が早期に終結に向かうとの見方や、米国における半導体関連株の好調な推移を受けて、株価は反発して始まりました。その後は中東情勢を巡る報道に左右される展開が続いたものの、米国とイランが即時停戦で合意したとの報道を受け、株価は大きく上昇しました。加えて、台湾の半導体大手による良好な決算発表を契機に、月初から堅調であったAI・半導体関連株の上昇が一段と加速し、これらの銘柄の寄与度が高い日経平均株価は騰勢を強め、27日には終値ベースで史上初となる6万円台に到達しました。一方で、ホルムズ海峡の事実上の封鎖が継続するなど、中東情勢の先行き不透明感は払拭されず、原燃料価格の上昇や石油由来製品の供給不安への懸念が相場の重石となり、月後半のTOPIXは相対的に伸び悩む展開となりました。さらに月末にかけては、日米の長期金利上昇も株式市場の上値を抑制しました。

月間の騰落率は、TOPIX(配当込)が+6.57%、日経平均株価は+16.10%でした。Russell/Nomura Mid-Small Capインデックス(配当込)が+6.26%、東証グロース市場250指数は+9.66%となり、中小型株も大きく上昇しました。

※上記コメントは、資料作成時点におけるもので将来の市場環境等の変動等を保証するものではありません。

## ポートフォリオの状況 (マザーファンド・ベース)

資産別組入状況	
株式	98.5%
新株予約権証券(ワラント)	-
投資信託・投資証券	-
現金・その他	1.5%

市場別組入状況	
東証プライム	90.1%
東証スタンダード	5.7%
東証グロース	2.7%
その他市場	-

組入上位5業種	
電気機器	8.1%
卸売業	7.4%
小売業	7.3%
化学	6.9%
精密機器	6.9%

(対純資産総額比率)

- \* 各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。
- \* 業種は東証33業種に準じて表示しています。
- \* 未払金等の発生により「現金・その他」の数値がマイナスになることがあります。

当資料は、情報提供を目的としたものであり、ファンドの推奨(有価証券の勧誘)を目的としたものではありません。本資料に記載の内容は将来の運用結果等を保証もしくは示唆するものではありません。当資料は、信頼できる情報をもとにフィデリティ投資信託が作成しておりますが、厳密な意味での正確性・完全性について当社が責任を負うものではありません。上記情報は、作成時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。

商品概要	
形態	追加型投資信託/国内/株式
投資対象	わが国の小型株式等
設定日	2002年9月20日
信託期間	原則無期限
決算日	原則、毎年11月30日(休業日のときは翌営業日)

累積リターン (2026年4月30日現在)						
	直近1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
ファンド	6.52%	5.29%	14.80%	42.02%	68.91%	356.37%
ベンチマーク	6.26%	7.54%	18.57%	45.27%	93.23%	699.97%

※累積リターンは、収益分配金を再投資することにより算出された収益率です。  
 ※ベンチマーク: Russell/Nomura Mid-Small Capインデックス\*(配当金込)  
 (但し、設定から2003年8月末までは東証第二部株価指数(配当金込)、2003年9月から2009年2月末まではRussell/Nomura Small Capインデックス(配当金込)でした。)  
 ※累積リターンは、2003年8月末までの東証第二部株価指数(配当金込)、2009年2月末までのRussell/Nomura Small Capインデックス(配当金込)、及び現在のベンチマークの騰落率を連続させて計算しております。  
 \*Russell/Nomura Mid-Small Cap インデックスとは、Russell/Nomura日本株インデックスの中小型株指数です。Russell/Nomura Total Market インデックスの時価総額中位35%と時価総額下位15%をカバーし、Russell/Nomura Mid-Small Cap Growth インデックスおよびRussell/Nomura Mid-Small Cap Value インデックスを含みます。  
 Russell/Nomura Mid-Small Cap インデックスの知的財産権およびその他一切の権利は野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社およびFrank Russell Companyに帰属します。なお、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社およびFrank Russell Companyは、Russell/Nomura Mid-Small Cap インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当ファンドの設定の可否、運用成果等並びに当ファンド及びRussell/Nomura Mid-Small Cap インデックスに関連して行われる当社のサービス提供等の行為に関して一切責任を負いません。

過去5期分の収益分配金(1万口当たり/税込)	
第20期(2021.11.30)	0円
第21期(2022.11.30)	0円
第22期(2023.11.30)	0円
第23期(2024.12.02)	0円
第24期(2025.12.01)	0円

純資産総額 0.4 億円 (2026年4月30日現在)

## 組入上位10銘柄 (マザーファンド・ベース) (2026年3月31日現在)

順位	銘柄	業種	比率
1	ふくおかフィナンシャルグループ	銀行業	2.6%
2	大阪ソーダ	化学	2.5%
3	INPEX	鉱業	2.4%
4	T&Dホールディングス	保険業	2.4%
5	大阪瓦斯	電気・ガス業	2.2%
6	サイゼリヤ	小売業	2.0%
7	富士電機	電気機器	2.0%
8	レーザーテック	電気機器	1.9%
9	住友不動産	不動産業	1.9%
10	ミスグループ本社	卸売業	1.9%

(組入銘柄数: 79) 上位10銘柄合計 21.9% (対純資産総額比率)

特別勘定の名称：日本株式インデックスA

# 日本株式インデックス・ファンドVA1

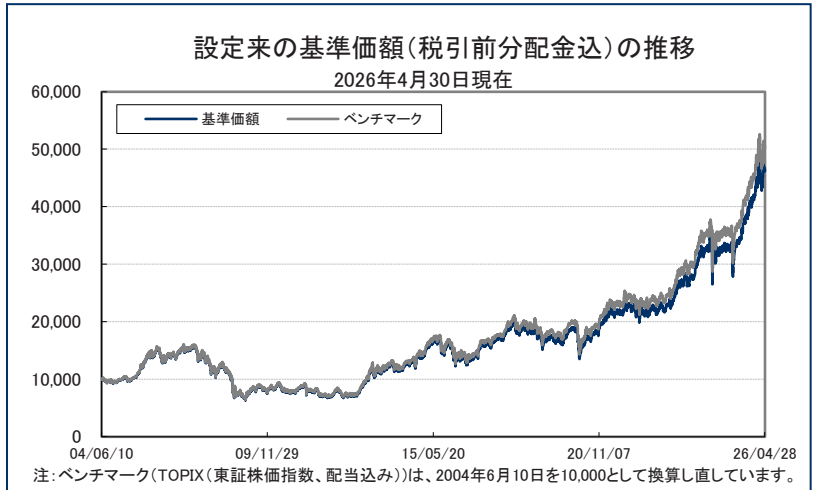
# ダブルウィング

## 日本株式インデックス・ファンドVA1 <適格機関投資家限定> 月次運用報告書

追加型投信／国内／株式／インデックス型  
2026年4月30日現在

設定・運用：  
ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社

基準価額	46,199円
純資産総額	1,439百万円
銘柄数（マザーファンド）	1,643
マザー受益証券投資比率	100.0%
信託報酬率	0.275%（税抜0.25%）
マザー純資産総額	48,367百万円
β値	1.00
推定トラッキングエラー	0.04%



<商品の特色>  
◆投資目的  
日本の証券取引所に上場されている株式を投資対象とした「日本株式インデックス・マザーファンド」受益証券に投資することにより、中長期的にTOPIX（東証株価指数、配当込み）の動きに連動した投資成果の獲得をめざして運用を行うことを基本とします。  
◆投資対象  
日本株式インデックス・マザーファンド受益証券を主たる投資対象とします。

<当月の市場概況>  
4月の国内株式市場は、米国とイランの軍事衝突の収束と和平交渉の進展に対する期待感や、米ハイテク株高などが相場を支え、大幅上昇となりました。TOPIX指数は前月末比6.56%上昇し、3727.21ポイントで終了しました。（配当込みTOPIX指数は6.57%の上昇でした。）  
上旬は、米国とイランの軍事衝突が収束に向かいつつあるとの観測や米国とイランが2週間の即時停戦で合意したことを受けて投資家のリスク回避姿勢が後退する中、上昇しました。  
中旬は、米国とイランの和平交渉進展期待や米ハイテク株高が相場を支えましたが、利益確定や持ち高整理の売りが上値を抑えました。  
下旬は、米国の利下げ観測の後退や原油高、短期的な相場過熱感への警戒が重荷となりました。

### 上位5業種構成比※

業種	比率	分配実績（税引前）	
		決算期	分配金
電気機器	18.62%	第18期（2022年3月7日）	0円
銀行業	10.34%	第19期（2023年3月6日）	0円
卸売業	8.02%	第20期（2024年3月5日）	0円
機械	6.39%	第21期（2025年3月5日）	0円
情報・通信業	6.12%	第22期（2026年3月5日）	0円

### 上位20銘柄※

銘柄名	業種	比率
1 三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	3.19%
2 トヨタ自動車	輸送用機器	2.93%
3 日立製作所	電気機器	2.26%
4 三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	2.16%
5 ソニーグループ	電気機器	1.96%
6 三菱商事	卸売業	1.92%
7 ソフトバンクグループ	情報・通信業	1.83%
8 東京エレクトロン	電気機器	1.72%
9 みずほフィナンシャルグループ	銀行業	1.71%
10 三井物産	卸売業	1.61%
11 三菱重工業	機械	1.59%
12 アドバンテスト	電気機器	1.55%
13 東京海上ホールディングス	保険業	1.33%
14 キーエンス	電気機器	1.30%
15 三菱電機	電気機器	1.26%
16 伊藤忠商事	卸売業	1.26%
17 信越化学工業	化学	1.18%
18 HOYA	精密機器	1.00%
19 ファーストリテイリング	小売業	0.96%
20 リクルートホールディングス	サービス業	0.95%

### ※マザーファンド純資産総額対比

基準価額騰落率	設定来	1年間	
(税引前分配金込)	361.99%	42.59%	
騰落率			
	ファンド	ベンチマーク	差
1ヶ月	6.56%	6.57%	-0.01%
3ヶ月	5.50%	5.56%	-0.07%
6ヶ月	13.00%	13.17%	-0.17%
1年	42.59%	43.01%	-0.43%
2年	41.68%	42.57%	-0.89%
3年	92.26%	94.43%	-2.16%
設定来	361.99%	402.63%	-40.64%

○本資料は金融商品取引法上及び投信法上の開示書類ではありません。  
○本資料は、ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社（以下「弊社」とします）が当ファンドの情報提供を目的として作成したものであり、投資の勧誘を目的とするものではありません。  
○本資料中の過去の運用実績に関するグラフ・数値等は将来の成果をお約束するものではありません。また、市場概況等は本資料作成時点の弊社の見解であり、将来の動向や結果を保証するものではありません。  
○本資料の内容は作成日現在のものであり、将来予告なく変更することがあります。  
○当ファンドは主に日本の株式に投資するため、組入れた株式の値動きにより基準価額は変動しますので、これにより投資元本を割り込むことがあります。また、投資信託の商品特性上、上記以外のリスクもあります。

この保険のご留意いただきたい内容については、巻頭に「特別勘定運用レポートをご覧くださいにあたって」の記載がございますので、必ずご確認ください。

特別勘定の名称：外国株式インデックスA

# 外国株式インデックス・ファンドVA1

# ダブルウィング

## 外国株式インデックス・ファンドVA1 (適格機関投資家専用) 月次運用報告書

追加型投信 / 海外 / 株式 / インデックス型

設定・運用：  
ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社

2026年4月30日現在

基準価額	117,657円
純資産総額	476百万円
銘柄数 (マザーファンド)	1,148
マザー受益証券投資比率	100.0%
信託報酬率	0.418% (税抜0.38%)

マザー純資産総額	493,810百万円
β値	1.00
推定トラッキングエラー	0.01%

<商品の特色>  
◆投資目的  
日本を除く世界の主要国の株式を投資対象とした「外国株式インデックス・オープン・マザー・ファンド」受益証券に投資することにより、中長期的に日本を除く世界の主要国の株式市場 (MSCIロクサイ・インデックス (配当込み、円換算ベース)) の動きに連動した投資成果の獲得をめざして運用を行うことを基本とします。  
◆投資対象  
外国株式インデックス・オープン・マザー・ファンド受益証券を主たる投資対象とします。

<当月の市場概況>  
4月の外国株式市場は、米国とイランの軍事衝突の収束や和平交渉の進展に対する期待感が高まったことや、堅調な企業決算とハイテク株高が相場を支える中で、上昇しました。

米国株式市場は、米国とイランの軍事衝突の収束や和平交渉の進展に対する期待感が高まったことや、堅調な企業決算とハイテク株高が相場を支える中で、上昇しました。ダウ平均は49,652.14 (前月比+7.14%)、ナスダック総合指数は24,892.31 (前月比+15.29%)、S&P500指数は7,209.01 (前月比+10.42%)で終了しました。

欧州市場は、米国とイランの軍事衝突の収束に対する期待感から上昇しましたが、月後半は和平交渉の停滞と原油価格の高止まりによる景気への影響が懸念されたことが重荷となり、上昇幅を縮小しました。英FTSE100指数は10,378.82 (前月比+1.99%)、仏CAC40指数は8,114.84 (前月比+3.81%)、独DAX指数は24,292.38 (前月比+7.11%)で終了しました。

アジア市場は、米国とイランの軍事衝突を巡る警戒感の後退が支えとなる中で、上昇しました。豪ASX200指数は8,665.82 (前月比+2.17%)、香港ハンセン指数は25,776.53 (前月比+3.99%)で終了しました。

4月の外国為替市場は、中東情勢を巡る不透明感の高まりを背景に原油価格が高止まりする中、エネルギー輸入国である日本の交易条件悪化や景気下押し懸念が意識されたことに加え、安全資産としてのドル需要や米国の相対的な経済の底堅さを背景にドルが選好され、円安・ドル高が進行しました。また、円はユーロや豪ドルなどの主要通貨に対して弱含み、対主要通貨で幅広く円安となりました。円は対米ドルで月間0.32%下落の160.39円となりました。

MSCIロクサイ・インデックス (配当込み、円換算ベース) のパフォーマンスは前月比+11.39%となりました。

設定来の基準価額 (税引前分配金込) の推移  
2026年4月30日現在



注：ベンチマークは、MSCIロクサイ・インデックス (配当込み) のデیلیー・リターンをTTM レートで円換算し、2002年9月23日を10,000 として換算し直しています。

### 信託財産構成比※

項目	国名	2026/4/30	分配実績 (税引前)
外国株式	全体	95.6%	第10期 (2011.11.30) 0円
	<北米>	76.5%	第11期 (2012.11.30) 0円
	アメリカ	73.0%	第12期 (2013.12.2) 0円
	カナダ	3.5%	第13期 (2014.12.1) 0円
	<アジア・太平洋>	2.6%	第14期 (2015.11.30) 0円
	オーストラリア	1.7%	第15期 (2016.11.30) 0円
	香港	0.5%	第16期 (2017.11.30) 0円
	シンガポール	0.4%	第17期 (2018.11.30) 0円
	ニュージーランド	0.0%	第18期 (2019.12.2) 0円
	<ヨーロッパ>	16.2%	第19期 (2020.11.30) 0円
	ベルギー	3.7%	第20期 (2021.11.30) 0円
	フランス	2.5%	第21期 (2022.11.30) 0円
	ドイツ	2.3%	第22期 (2023.11.30) 0円
	オランダ	1.3%	第23期 (2024.12.2) 0円
	イタリア	0.8%	第24期 (2025.12.1) 0円
	スペイン	1.0%	
	スウェーデン	0.9%	
	フィンランド	0.3%	
	アイルランド	0.1%	
	デンマーク	0.4%	
	ルクセンブルグ	0.2%	
	ポルトガル	0.1%	
	オーストリア	0.1%	
	<アフリカ・中東>	0.3%	
	イスラエル	0.3%	
その他 (現金及び株価指数先物)		4.4%	

### 上位10銘柄※

基準価額騰落率 (税引前分配金込)	設定来	1年間	銘柄名	投資国名	業種名称	比率
	1076.57%	43.29%	1 NVIDIA CORP	アメリカ	半導体・半導体製造装置	6.0%
騰落率			2 APPLE INC	アメリカ	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	4.7%
1ヶ月	11.29%	11.39%	3 MICROSOFT CORP	アメリカ	ソフトウェア・サービス	3.5%
3ヶ月	5.99%	6.19%	4 AMAZON COM INC	アメリカ	一般消費財・サービス流通・小売り	3.0%
6ヶ月	9.59%	10.02%	5 ALPHABET INC-CL A	アメリカ	メディア・娯楽	2.4%
1年	43.29%	44.38%	6 BROADCOM INC	アメリカ	半導体・半導体製造装置	2.2%
2年	43.49%	45.75%	7 ALPHABET INC-CL C	アメリカ	メディア・娯楽	2.0%
3年	102.36%	107.20%	8 META PLATFORMS INC-A	アメリカ	メディア・娯楽	1.7%
設定来	1076.57%	1397.69%	9 TESLA INC	アメリカ	自動車・自動車部品	1.2%
			10 JPMORGAN CHASE & CO	アメリカ	銀行	1.0%

※マザーファンド純資産総額対比

○本資料は金融商品取引法上及び投信法上の開示書類ではありません。  
○本資料は、ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社 (以下「弊社」とします) が当ファンドの情報提供を目的として作成したものであり、投資の勧誘を目的とするものではありません。  
○本資料中の過去の運用実績に関するグラフ・数値等は将来の成果をお約束するものではありません。また、市場概況等は本資料作成時点の弊社の見解であり、将来の動向や結果を保証するものではありません。  
○本資料の内容は作成日現在のものであり、将来予告なく変更することがあります。  
○当ファンドは主に外国の株式に投資するため、組入れた株式の値動きおよび為替変動により基準価額は変動しますので、これにより投資元本を割り込むことがあります。また、投資信託の商品特性上、上記以外のリスクもあります。

この保険のご留意いただきたい内容については、巻頭に「特別勘定運用レポートをご覧くださいにあたって」の記載がございますので、必ずご確認ください。

## ファンドの主な特徴

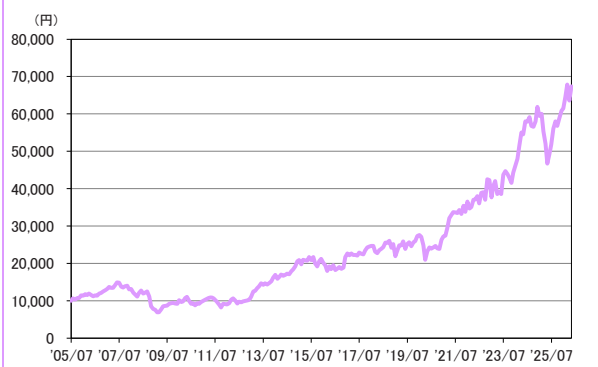
当ファンドは、アンダーライニング・ファンド<sup>\*</sup>への投資を通して、米国の中小型株式を実質的な主要投資対象とします。

- ① 主に米国の中小型割安(バリュー)株式に幅広く投資します。
- ② 企業の本源的価値に対して、割安な価格で取り引きされていると判断する株式を選定します。
- ③ 株価の下落余地と上昇余地を厳格に分析し、リスクを低減しつつ、収益の獲得を目指します。

\* 当ファンドのアンダーライニング・ファンドは、ジャナス・ヘンダーソン・キャピタル・ファンド ジャナス・ヘンダーソン・USモール・ミッド・キャップ・バリュー・ファンドです。

基準価額 (2026年4月30日現在) 67,328円

基準価額の推移 (2026年4月30日現在)



運用実績 (2026年4月30日現在)

	1カ月	3カ月	6カ月	1年	設定来
ファンド	5.86%	4.16%	14.27%	44.04%	573.28%

当ファンドの基準価額と運用実績は管理報酬等控除後のものです。

地域別構成比率 (2026年3月31日現在)

(対組入証券時価総額)	
北米	100.00%
ヨーロッパ	—
アジア・太平洋	—
その他	—

\*1 業種は、GICS(世界産業分類基準)に基づきます。

\*2 小数点以下第3位で四捨五入して表示しているため、合計は必ずしも一致しません。

ファンドの概要 (2026年3月31日現在)

形態	アイルランド籍オープンエンド契約型外国投資信託
設定日	2005年7月1日
純資産総額	163百万米ドル
保有銘柄数	50銘柄

株式組入上位10銘柄 (対組入株式時価総額) (2026年3月31日現在)

銘柄	業種 <sup>*1</sup>	比率 <sup>*2</sup>
リテルヒューズ	情報技術	3.55%
マグノリア・オイル・アンド・ガス	エネルギー	3.47%
アライアント・エナジー	公益事業	3.34%
ビジネス・ファースト・バンクシェアーズ <sup>†</sup>	金融	2.84%
アクシス・キャピタル・ホールディングス	金融	2.80%
ラマール・アドバタイジング	不動産	2.79%
ヘリオス・テクノロジーズ	資本財・サービス	2.79%
アグリー・リアルティ	不動産	2.67%
セレクトティブ・インシュアランス・グループ <sup>†</sup>	金融	2.61%
ウイントラスト・ファイナンシャル	金融	2.59%
上位10銘柄の合計		29.44%

業種別構成比率<sup>\*1</sup> (2026年3月31日現在)

(対組入株式時価総額)	
金融	22.43%
資本財・サービス	19.19%
情報技術	13.12%
一般消費財・サービス	10.12%
素材	9.11%
不動産	7.13%
エネルギー	5.64%
ヘルスケア	5.15%
公益事業	3.34%
コミュニケーション・サービス	2.53%
生活必需品	2.24%

運用コメント (2026年3月31日現在)

【市場概況】 3月の米国中小型割安株式市場は前月末比で下落しました。

上旬は、中東情勢の緊迫化を背景に原油価格が上昇し、インフレ再燃への警戒感が強まりました。これを受けて長期金利が上昇し、早期利下げ期待が後退したことから、市場は軟調に推移しました。中旬は、インフレ指標が市場予想をやや上回ったほか、米連邦準備制度理事会(FRB)高官がインフレ抑制に慎重な姿勢を示しました。これにより利下げ開始時期が後ずれするとの見方が強まり、金利高止まりへの警戒感から、市場は続落しました。下旬は、原油価格の上昇が一服し長期金利が低下したことで、市場は一時的に反発しました。しかしその後は、中東情勢を巡る緊張の再燃や原油価格の再上昇を受けて再び下落しました。月末には、米国とイランの軍事衝突が終結に向かうとの観測が浮上したことで投資家心理が改善し、市場は小反発しました。

【運用概況】 当月の当ファンドのリターンは米ドルベースでマイナスとなりました。業種別では、エネルギーや生活必需品セクターなどがプラスに寄与した一方、資本財・サービスや金融セクターなどがマイナスに影響しました。

【運用方針】 中東情勢を背景に先行き不透明感が残るものの、米国は国内での石油・ガス生産力が高く、相対的に経済への影響は限定的となる可能性があると思われています。エネルギー価格はやや高い水準が続く可能性がありますが、高所得層を中心に消費は底堅く、また春先には確定申告に伴う税還付金が家計を下支えすることも期待されます。これらの点から、米国経済は慎重さを保ちつつも、回復力を備えた状況にあると見ています。

こうした環境を踏まえ、当ファンドでは、割安と判断される質の高い企業の発掘に努めています。特に、高い経営力、魅力的なバリュエーション、安定した利益成長、強固なフリーキャッシュフロー、低い負債水準を備えた企業に注目しています。加えて、小型株は引き続き大型株と比べて割安な水準にあると見ています。

今後も、市場上昇時のリターン獲得を目指すとともに、下落局面では、下落リスクの予測や分析に基づいて損失を最小限に抑えることを目指す運用を行っていく方針です。

上記運用コメントは実質的な運用を行うアンダーライニング・ファンドに係る説明を含みます。当資料は作成時点の見解であり、将来の市場環境の変動等により上記運用方針が変更される場合があります。

「基準価額」、「基準価額の推移」、「運用実績」、「ファンドの概要」のうち「形態」および「設定日」を除く情報は、アンダーライニング・ファンドのものであります。

当資料中の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、提供された情報の正確性、完全性、適時性について保証するものではなく、それを使用したことによる結果について何ら保証するものではありません。当資料中の情報は、示された日付現在までのみ更新されたものです。いかなる分析、意見、試算、または予測についても、予告なくこれを変更することがあります。当資料は、ファンドの運用状況の情報提供を目的に、ジャナス・ヘンダーソン・インベスターズ・ヨーロッパ・エスエーが作成したものであり、有価証券についての投資助言または有価証券の売買の募集・勧誘をするものではありません。

特別勘定の名称：ジャナス外国株式フォーティ

## ジャナス・フォーティ・ファンド

## ダブルウィング

## ファンドの主な特徴

当ファンドは、アンダーライニング・ファンド\*への投資を通して、米国株式を実質的な主要投資対象とします。

- ① 主に米国の大型成長株式に投資します。
- ② 徹底した個別企業のリサーチに基づき、20~40銘柄程度をポートフォリオの中核として集中投資します。
- ③ 革新性があり、中長期的に高い成長可能性を持つと考える銘柄を愛好します。

\* 当ファンドのアンダーライニング・ファンドは、ジャナス・ヘンダーソン・キャピタル・ファンド ジャナス・ヘンダーソン・USフォーティ・ファンドです。

基準価額 (2026年4月30日現在) 137,446円

## 基準価額の推移 (2026年4月30日現在)



## 運用実績 (2026年4月30日現在)

	1か月	3か月	6か月	1年	設定来
ファンド	12.11%	3.89%	-0.74%	39.18%	1274.46%

当ファンドの基準価額と運用実績は管理報酬等控除後のものです。

## 地域別構成比率 (2026年3月31日現在)

(対組入証券時価総額)	
北米	88.10%
ヨーロッパ	1.94%
アジア・太平洋	7.09%
その他	2.87%

\*1 業種は、GICS(世界産業分類基準)に基づきます。

\*2 小数点以下第3位で四捨五入して表示しているため、合計は必ずしも一致しません。

## ファンドの概要 (2026年3月31日現在)

形態	アイルランド籍オープンエンド契約型外国投資信託
設定日	2005年7月1日
純資産総額	1,218百万米ドル
保有銘柄数	33銘柄

## 株式組入上位10銘柄 (対組入株式時価総額) (2026年3月31日現在)

銘柄	業種*1	比率*2
エスビディア	情報技術	9.88%
アマゾン・ドット・コム	一般消費財・サービス	8.80%
台湾積体回路製造[TSMC/台湾セミコンダクタ]	情報技術	7.09%
マイクロソフト	情報技術	6.91%
ブロードコム	情報技術	5.73%
アップル	情報技術	4.80%
アルファベット	コミュニケーション・サービス	4.77%
オラクル	情報技術	4.56%
イトン	資本財・サービス	3.82%
イーライリリー・アンド・カンパニー	ヘルスケア	3.80%
上位10銘柄の合計		60.17%

## 業種別構成比率\*1 (2026年3月31日現在)

(対組入株式時価総額)	
情報技術	45.55%
一般消費財・サービス	17.82%
資本財・サービス	12.09%
ヘルスケア	11.79%
コミュニケーション・サービス	8.48%
金融	4.27%
生活必需品	-
エネルギー	-
素材	-
公益事業	-
不動産	-

## 運用コメント

(2026年3月31日現在)

**【市場概況】** 3月の米国大型成長株式市場は前月末比で下落しました。上旬は、米国・イスラエルとイランの衝突を巡る地政学リスクの高まりから原油価格が上昇し、インフレ懸念を背景に米長期金利も上昇したことで、投資家のリスク回避姿勢が強まり、上値の重い展開となりました。中旬も、イラン情勢を巡る緊張の高まりを受け、中東からの原油供給減少への懸念が強まったほか、米連邦準備制度理事会(FRB)の高官が相次いでインフレ圧力に言及したことで利下げ観測が後退し、市場は下落基調となりました。下旬も、米国とイランの停戦交渉の行方により引き続き左右される展開となりました。交渉難航への警戒感から原油価格が一段と上昇し、市場は下落幅を拡大しましたが、月末に軍事衝突が終結に向かうとの見方が浮上すると、小反発しました。

**【運用概況】** 当月の当ファンドのリターンは米ドルベースでマイナスとなりました。情報技術や資本財・サービスを中心に、すべてのセクターがマイナスに影響しました。

**【運用方針】** 中東情勢の先行きには不透明感が残るものの、米国株式市場に対して前向きな見通しを維持しています。原油価格の上昇には注意が必要ですが、米国の経済活動を大きく損なう可能性は低いと見ています。個人消費は高所得層を中心に底堅く、春先の確定申告に伴う税還付金も追い風となり、ガソリン価格の上昇による影響を一部相殺すると見込まれます。このような中、経済成長の原動力として設備投資の重要性は一段と高まっています。AIの開発や運用に欠かせない計算能力やインフラへの需要は当面供給を上回ると見られ、半導体メモリや電力供給などの重要な分野で事業を展開する企業に投資機会が生まれると考えます。一方で、AIの進展が産業構造や競争環境を変化させる可能性にも留意しています。当ファンドは、株式市場の動向やマクロ経済を注視しつつ、健全に成長する市場において競争優位性がある企業や、市場に十分に評価されていない魅力的な企業の発掘に努めています。今後も、徹底した企業調査・分析に基づき、長期的な信託財産の成長を目的とした運用を行う方針です。

上記運用コメントは実質的な運用を行うアンダーライニング・ファンドに係る説明を含みます。当資料は作成時点の見解であり、将来の市場環境の変動等により上記運用方針が変更される場合があります。

「基準価額」、「基準価額の推移」、「運用実績」、「ファンドの概要」のうち「形態」および「設定日」を除く情報は、アンダーライニング・ファンドのものであり、当資料中の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、提供された情報の正確性、完全性、適時性について保証するものではなく、それを使用したことによる結果について何ら保証するものではありません。当資料中の情報は、示された日付現在までのみ更新されたものです。いかなる分析、意見、試算、または予測についても、予告なくこれを変更することがあります。当資料は、ファンドの運用状況の情報提供を目的に、ジャナス・ヘンダーソン・インベスターズ・ヨーロッパ・エスエーが作成したものであり、有価証券についての投資助言または有価証券の売買の募集・勧誘をするものではありません。

YW-0426 (13) 0526 Japan Comp

この保険のご留意いただきたい内容については、巻頭に「特別勘定運用レポートをご覧くださいにあたって」の記載がございますので、必ずご確認ください。

外国債券インデックス・ファンドVA1 <適格機関投資家限定>  
月次運用報告書

追加型投信／海外／債券／インデックス型  
2026年4月30日現在

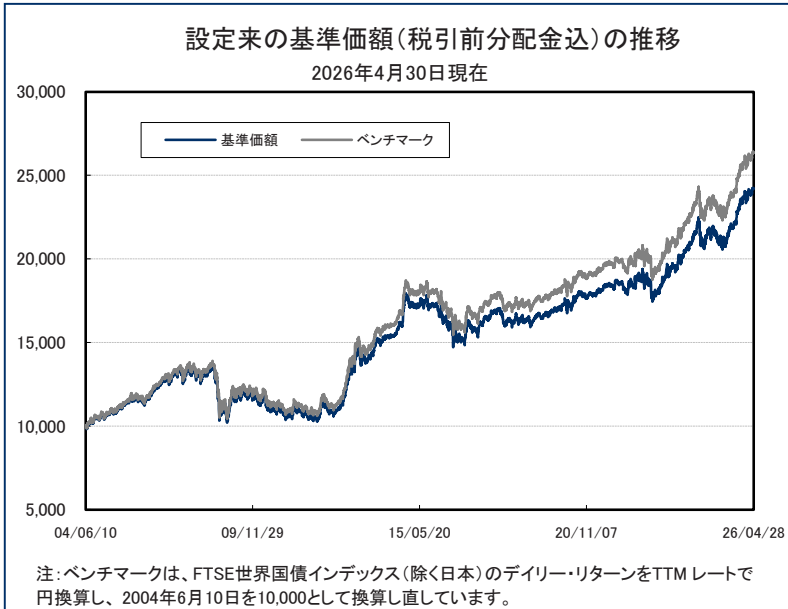
設定・運用：  
ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社

基準価額	24,204円
純資産総額	161百万円
銘柄数 (マザーファンド)	657
マザー受益証券投資比率	100.0%
信託報酬率	0.308% (税抜0.28%)

マザー純資産総額	84,639百万円
推定トラッキングエラー	0.01%

<商品の特色>  
◆投資目的  
日本を除く世界の主要国の公社債を投資対象とした「外国債券インデックス・マザー・ファンド」受益証券に投資することにより、中長期的に日本を除く世界の主要国の債券市場 (FTSE世界国債インデックス (除く日本、円換算ベース)) の動きに連動した投資成果の獲得をめざして運用を行うことを基本とします。  
◆投資対象  
外国債券インデックス・マザー・ファンド 受益証券を主たる投資対象とします。

<当月の市場概況>  
4月の外国債券市場は、米国とイランの和平合意を巡る動向に振られる展開となりました。月前半には、米国とイランが2週間の停戦で合意したことを受けて原油価格が大きく下落し、インフレ懸念の後退から債券は買われました。一方、その後は停戦合意に対する懸念が高まり、再びインフレ懸念が強まる中、債券は売られる展開となりました。  
米国市場では、中東情勢を巡るヘッドラインに左右される展開が続きました。停戦合意の発表を受けて、原油高を背景としたインフレ懸念が後退し債券は買われましたが、その後は和平交渉の停滞を受けて債券は売られました。米国10年国債利回りは前月末比で0.05%上昇し、4.37%となりました。  
欧州市場も米国と同様に中東情勢の影響を受け、方向性に欠ける展開となりました。月間を通じて債券が売られる局面と買われる局面が交錯しましたが、結果として小幅な金利上昇となりました。独10年国債利回りは前月末比0.04%上昇の3.04%、英10年国債利回りは同0.09%上昇の5.01%となりました。



分配実績 (税引前)

第7期 (2011.2.21)	0円	第8期 (2012.2.20)	0円	第9期 (2013.2.20)	0円	第10期 (2014.2.20)	0円
第11期 (2015.2.20)	0円	第12期 (2016.2.22)	0円	第13期 (2017.2.20)	0円	第14期 (2018.2.20)	0円
第15期 (2019.2.20)	0円	第16期 (2020.2.20)	0円	第17期 (2021.2.22)	0円	第18期 (2022.2.21)	0円
第19期 (2023.2.20)	0円	第20期 (2024.2.20)	0円	第21期 (2025.2.20)	0円	第22期 (2026.2.20)	0円

通貨別構成比※		残存年数別構成比※	
通貨	比率	残存年数	比率
米ドル	45.50%	1年未満	0.61%
ユーロ	28.89%	1~3年	30.01%
中国人民幣	12.44%	3~7年	33.00%
英ポンド	5.55%	7~10年	13.72%
カナダドル	2.11%	10年以上	22.55%
その他	5.38%		

上位10銘柄※

銘柄名	比率	通貨	残存年数
アメリカ国債 3.500% 2029/2/15	1.04%	USD	2.80
アメリカ国債 4.250% 2029/2/28	0.85%	USD	2.84
アメリカ国債 0.500% 2027/10/31	0.80%	USD	1.50
アメリカ国債 1.625% 2029/8/15	0.78%	USD	3.30
中国国債 2.750% 2029/6/15	0.77%	CNY	3.13
中国国債 2.370% 2029/1/15	0.76%	CNY	2.72
イタリア国債 2.000% 2028/2/1	0.70%	EUR	1.76
アメリカ国債 0.375% 2027/9/30	0.69%	USD	1.42
アメリカ国債 2.625% 2029/2/15	0.66%	USD	2.80
アメリカ国債 2.875% 2028/5/15	0.64%	USD	2.04

※マザーファンド純資産総額対比

基準価額騰落率	設定来	1年間	
(税引前分配金込)	142.04%	15.80%	
騰落率			
	ファンド	ベンチマーク	差
1ヶ月	1.33%	1.36%	-0.04%
3ヶ月	3.01%	3.10%	-0.09%
6ヶ月	4.68%	4.86%	-0.18%
1年	15.80%	16.22%	-0.41%
2年	13.31%	14.18%	-0.87%
3年	31.36%	32.80%	-1.43%
設定来	142.04%	163.49%	-21.45%

○本資料は金融商品取引法上及び投信法上の開示書類ではありません。  
○本資料は、ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社 (以下「弊社」とします) が当ファンドの情報提供を目的として作成したものであり、投資の勧誘を目的とするものではありません。  
○本資料中の過去の運用実績に関するグラフ・数値等は将来の成果をお約束するものではありません。また、市場概況等は本資料作成時点の弊社の見解であり、将来の動向や結果を保証するものではありません。  
○本資料の内容は作成日現在のものであり、将来予告なく変更することがあります。  
○当ファンドは主に外国の公社債に投資するため、組入れた公社債の値動きおよび為替変動により基準価額は変動しますので、これにより投資元本を割り込むことがあります。また、投資信託の商品特性上、上記以外のリスクもあります。

この保険のご留意いただきたい内容については、巻頭に「特別勘定運用レポートをご覧くださいにあたって」の記載がございますので、必ずご確認ください。

特別勘定の名称：ジャナス外国債券フレックス

## ジャナス・フレキシブル・インカム・ファンド

## ダブルウィング

## ファンドの主な特徴

当ファンドは、アンダーライニング・ファンド<sup>\*</sup>への投資を通して、米国債券を実質的な主要投資対象とします。

- ① 主に米国の債券に投資し、利子収入と値上がり益の獲得による、トータル・リターン<sup>\*</sup>の最大化を目指します。
- ② 市場環境の変化をとりえ、米国の国債、モーゲージ債、投資適格社債、ハイイールド債などへの投資比率を機動的に変更します。
- ③ 独自のポートフォリオ分析と徹底したリスク管理により、投資リスクの低減を重視した運用を行います。

\* 当ファンドのアンダーライニング・ファンドは、ジャナス・ヘンダーソン・キャピタル・ファンド ジャナス・ヘンダーソン・フレキシブル・インカム・ファンドです。

基準価額 (2026年4月30日現在) 27,456円

基準価額の推移 (2026年4月30日現在)



運用実績 (2026年4月30日現在)

	1か月	3か月	6か月	1年	設定来
ファンド	-1.11%	0.84%	1.96%	13.88%	174.56%

当ファンドの基準価額と運用実績は管理報酬等控除後のものです。

ファンドの概要 (2026年3月31日現在)

形態	アイルランド籍オープンエンド契約型外国投資信託
設定日	2005年7月1日
純資産総額	498百万米ドル
保有銘柄数	546銘柄
平均クーポン	4.95%
直接利回り	5.08%
最終利回り	5.49%
実効デュレーション	5.96年
現預金等比率	0.27%

社債組入上位10銘柄 (対組入債券時価総額) (2026年3月31日現在)

銘柄	利率 <sup>*1</sup>	満期(年/月/日) <sup>*1</sup>	業種 <sup>*2</sup>	比率 <sup>*4</sup>
ロブックス	3.875%	2030/05/01	通信	0.77%
ブーズ・アレックス・ハミルトン	5.950%	2035/04/15	その他産業	0.74%
シティグループ	5.592%	2034/11/19	銀行	0.74%
シティグループ	4.503%	2031/09/11	銀行	0.74%
ユナイテッド・エアラインズ・ホールディングス	4.875%	2029/03/01	運輸	0.67%
ファウンドリーJV	5.875%	2034/01/25	テクノロジー	0.66%
モルガン・スタンレー・プライベート・バンク	4.734%	2031/07/18	銀行	0.61%
アップラビン	5.500%	2034/12/01	通信	0.61%
アンテロ・リソース	5.400%	2036/02/01	エネルギー	0.56%
バンク・オブ・アメリカ	5.744%	2036/02/12	銀行	0.53%
上位10銘柄の合計				6.63%

地域別構成比率 (2026年3月31日現在)

(対組入証券時価総額)	比率
北米	89.22%
ヨーロッパ	4.11%
アジア・太平洋	0.37%
その他	6.30%

\*1 割引債など利率が無い銘柄、永久債など満期の無い銘柄は「-」で表示しています。

\*2 業種は、ブルームバーグ債券インデックスの分類に基づきます。

\*3 主要格付機関による格付けの中間値。

表記方法はS&amp;Pに準じています。

\*4 小数点以下第3位で四捨五入して表示しているため、合計は必ずしも一致しません。

資産別構成比率 (2026年3月31日現在)

(対純資産総額)	比率
国債	3.08%
政府関連債	-
モーゲージ債等	44.43%
投資適格社債	22.61%
ハイイールド債	17.21%
その他	12.40%
現預金等	0.27%

格付別構成比率<sup>\*3</sup> (2026年3月31日現在)

(対組入債券時価総額)	比率
AAA格	16.72%
AA格	35.43%
A格	8.96%
BBB格	18.34%
BB格	14.68%
B格	2.41%
CCC格以下	-
格付けなし	3.46%

## 運用コメント

(2026年3月31日現在)

【市場概況】3月の米国債券市場では、前月末比で長期金利が上昇しました。原油価格上昇を受けてインフレ再燃と金利上昇が警戒された中、多くの債券のトータルリターンが軟調に推移しました。

上旬は、中東における軍事衝突を背景に原油価格が上昇し、インフレ再燃が意識された中、長期金利が上昇しました。中旬も、ホルムズ海峡封鎖による原油先高値や米連邦公開市場委員会(FOMC)にて金利据え置きが決定され、利下げ期待が後退したことから、10年国債利回りは上昇基調で推移しました。下旬は、米国とイランの停戦交渉がプラス材料となったものの、交渉難航が予想され、利回り低下は限定的でした。

【運用概況】当月の当ファンドのリターンは米ドルベースでマイナスとなりました。債券種別では、保有するほとんどの債券セクターがマイナス寄与し、特にモーゲージ債と投資適格社債が大きくマイナスに影響しました。社債の業種別では、テクノロジーやその他金融セクターなどがマイナスに影響しました。

【運用方針】中東情勢の緊迫化によるエネルギー価格の急騰を受け、短期的なインフレ上昇が予想されます。エネルギー価格は当面、高止まりする可能性があると考えています。現時点では、中東情勢がさらに悪化する可能性は低いと考えますが、情勢が更に緊迫化した場合にはエネルギー価格の高止まりによる成長圧迫への懸念が強まり、最終的に金利低下に繋がる可能性もあると見ています。

債券市場ではボラティリティが高まる可能性があります。中長期的な見直しは堅調と考えます。企業ファンダメンタルズが引き続き、堅調であることや、高水準のインカムを確保したい投資家からの需要、社債の割高感が緩和していることを背景に、証券化商品および社債には魅力的な投資機会があると見ています。現在のようない変動性の高い環境においては、高い利回りによるインカム収益が価格下落時のクッションとして作用すると考えます。

エネルギー価格およびインフレ動向と米連邦準備制度理事会(FRB)の金融政策の方向性が、米国債券市場の動向を左右する要因になると見ています。インカムの確保と下落リスク抑制を意識しつつ、運用することが重要と考えます。今後も銘柄選択と債券種別の分散を重視しながら、機動的に資産配分を調整し、良好なリターン調整後リターンの獲得を目指す方針です。

上記運用コメントは実質的な運用を行うアンダーライニング・ファンドに係る説明を含みます。当資料は作成時点の見解であり、将来の市場環境の変動等により上記運用方針が変更される場合があります。

「基準価額」、「基準価額の推移」、「運用実績」、「ファンドの概要」のうち「形態」および「設定日」を除く情報は、アンダーライニング・ファンドのものであります。

当資料中の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、提供された情報の正確性、完全性、適時性について保証するものではなく、それを使用したことによる結果について何ら保証するものではありません。当資料中の情報は、示された日付現在までのみ更新されたものです。いかなる分析、意見、試算、または予測についても、予告なくこれを変更することがあります。当資料は、ファンドの運用状況の情報提供を目的に、ジャナス・ヘンダーソン・インベスターズ・ヨーロッパ・エスエーが作成したものであり、有価証券についての投資助言または有価証券の売買の募集・勧誘をするものではありません。

この保険のご留意いただきたい内容については、巻頭に「特別勘定運用レポートをご覧くださいにあたって」の記載がございますので、必ずご確認ください。

## ジャナス・ハイイールド・ファンド

## ダブルウィング

## ファンドの主な特徴

当ファンドは、アンダーライニング・ファンド\*への投資を通して、米国ハイイールド債を実質的な主要投資対象とします。

- ① 主に米国のハイイールド(高利回り)債に投資し、高水準の利子収入と値上がり利益の獲得を目指します。
- ② 多角的に企業の調査・分析を行い、社債銘柄を選別し投資します。
- ③ 独自のポートフォリオ分析と徹底したリスク管理により、投資リスクの低減を重視した運用を行います。

\* 当ファンドのアンダーライニング・ファンドは、ジャナス・ヘンダーソン・キャピタル・ファンド ジャナス・ヘンダーソン・ハイイールド・ファンドです。

基準価額 (2026年4月30日現在) 41,643円

基準価額の推移 (2026年4月30日現在)



運用実績 (2026年4月30日現在)

	1か月	3か月	6か月	1年	設定来
ファンド	0.65%	1.77%	4.25%	21.42%	316.43%

当ファンドの基準価額と運用実績は管理報酬等控除後のものです。

ファンドの概要 (2026年3月31日現在)

形態	アイルランド籍オープンエンド契約型外国投資信託
設定日	2005年7月1日
純資産総額	324百万米ドル
保有銘柄数	151銘柄
平均クーポン	7.21%
直接利回り	7.28%
最終利回り	7.62%
実効デュレーション	3.16年
現預金等比率	0.41%

社債組入上位10銘柄 (対組入債券時価総額) (2026年3月31日現在)

銘柄	利率*	満期(年/月/日)*1	業種*2	比率*4
トルガス・エナジー・パートナーズ/ファイナンス	6.750%	2034/03/15	エネルギー	2.75%
キオクシアホールディングス	6.625%	2033/07/24	テクノロジー	2.28%
ジェン・ストリート・グループ/JSG ファイナンス	6.125%	2032/11/01	証券仲介・資産運用・取引所	1.76%
ライフポイント・ヘルス	10.000%	2032/06/01	非景気循環消費財	1.73%
ハワード・ミッドストリーム・エナジー	6.625%	2034/01/15	エネルギー	1.73%
ペリティブ・オペレーティング	10.500%	2030/11/30	素材	1.71%
シーザーズ・エンターテインメント	6.000%	2032/10/15	景気循環消費財	1.65%
ファースト・クワンタム・ミネラルズ	8.000%	2033/03/01	素材	1.60%
スノコ	5.625%	2034/07/15	エネルギー	1.60%
モヒガン・トライバル・ゲーミング・オプティマイズ	8.250%	2030/04/15	景気循環消費財	1.58%
上位10銘柄の合計				18.40%

地域別構成比率 (2026年3月31日現在)

地域	対組入証券時価総額
北米	91.35%
ヨーロッパ	1.40%
アジア・太平洋	3.63%
その他	3.62%

社債組入上位5業種\*2 (2026年3月31日現在)

業種	対組入債券時価総額
景気循環消費財	27.37%
エネルギー	12.99%
素材	9.91%
テクノロジー	9.33%
通信	4.64%

格付別構成比率\*3 (2026年3月31日現在)

格付	対組入債券時価総額
AAA格	—
AA格	—
A格	—
BBB格	—
BB格	41.17%
B格	49.95%
CCC格以下	6.04%
格付けなし	2.84%

- \*1 割引債など利率が無い銘柄、永久債など満期の無い銘柄は「—」で表示しています。  
 \*2 業種は、ブルームバーグ債券インデックスの分類に基づきます。  
 \*3 主要格付機関による格付けの中間値。表記方法はS&Pに準じています。  
 \*4 小数点以下第3位で四捨五入して表示しているため、合計は必ずしも一致しません。

## 運用コメント

(2026年3月31日現在)

【市場概況】3月の米国ハイイールド債市場のトータルリターンは下落しました。当月、原油価格上昇を受けてインフレ再燃と金利上昇が警戒された中、米国ハイイールド債の信用スプレッド(国債利回りに対する上乗せ利回り)が拡大しました。上旬は、中東における軍事衝突を背景に原油価格が上昇し、インフレ再燃が意識された中、ハイイールド債市場のトータルリターンは軟調な展開となりました。中旬も、ホルムズ海峡封鎖による原油先高値や米連邦公開市場委員会(FOMC)にて金利据え置きが決定され、利下げ期待が後退したことから、ハイイールド債市場のトータルリターンは下落基調で推移しました。下旬は、米国とイランの停戦交渉がプラス材料となったものの、交渉難航が予想され、ハイイールド債市場のトータルリターンは小反発しました。

【運用概況】当月の当ファンドのリターンは米ドルベースでマイナスとなりました。業種別では、独立系エネルギーや有線通信セクターがプラスに寄与した一方、カジノやその他金融セクターなどはマイナスに影響しました。

【運用方針】中東情勢の緊迫化によるエネルギー価格の急騰を受け、短期的なインフレ上昇が予想される中、米国の一部の業種で景気サイクル終盤の兆候が見られます。しかし、底堅い個人消費とAI導入による企業の収益性向上に加え、半導体やデータセンターへのAI関連の大規模投資が成長を押し上げ、米国経済は今後も堅調を維持すると見えています。エネルギー価格およびインフレ動向と米連邦準備制度理事会(FRB)の金融政策の方向性が、米国債券市場の動向を左右する要因になると見えています。量的緩和が再開されたことや、景気が失速した場合に迅速かつ積極的に金融緩和に動く余地があることは、債券市場にとってプラスに作用すると考えますが、米国の財政赤字やFRBの独立性を巡る懸念から長期金利が高止まりする可能性にも留意しています。ハイイールド債の信用スプレッドが拡大し、割高感が緩和しつつあります。高い利回りを求める投資家の米国ハイイールド債に対する需要が継続すると予想される一方、インカム確保と下落リスク抑制を意識し、運用することが重要と考えます。今後も徹底したボトムアップ・リサーチと厳格なリスク管理により、リスクを抑制しつつリターンを獲得を目指す方針です。

上記運用コメントは実質的な運用を行うアンダーライニング・ファンドに係る説明を含みます。当資料は作成時点の見解であり、将来の市場環境の変動等により上記運用方針が変更される場合があります。

「基準価額」、「基準価額の推移」、「運用実績」、「ファンドの概要」のうち「形態」および「設定日」を除く情報は、アンダーライニング・ファンドのものであり、当資料中の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、提供された情報の正確性、完全性、適時性について保証するものではなく、それを使用したことによる結果について何ら保証するものではありません。当資料中の情報は、示された日付現在までのみ更新されたものです。いかなる分析、意見、試算、または予測についても、予告なくこれを変更することがあります。当資料は、ファンドの運用状況の情報提供を目的に、ジャナス・ヘンダーソン・インベスターズ・ヨーロッパ・エスエーが作成したものであり、有価証券についての投資助言または有価証券の売買の募集・勧誘をするものではありません。

YW-0426 (13) 0526 Japan Comp

この保険のご留意いただきたい内容については、巻頭に「特別勘定運用レポートをご覧くださいにあたって」の記載がございますので、必ずご確認ください。

特別勘定の名称：SMAM・バランス25,50,75

## SMAM・バランスファンドVA25,50,75

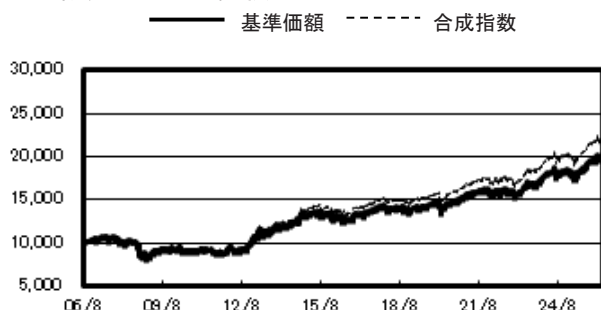
ダブルウィング

■このレポートは、三井住友DSアセットマネジメントが信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。■このレポートの内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、その正確性・完全性を保証するものではありません。■運用実績等に関するグラフ・数値等は過去の実績を示すものであり将来の運用成果をお約束するものではありません。■この資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者、許諾者に帰属します。



## 【SMAM・バランスファンドVA25】

## ● 設定来の運用実績



- 基準価額は、2006年8月31日を10000とした指数として表示しております。
- 合成指数は、2006年8月31日を10000として、TOPIX(東証株価指数、配当込み)、NOMURA-BPI(総合)、MSCIコクサイインデックス(配当込み、円ベース)、FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)の日々の収益率を当ファンドの基本資産配分で加重平均し、当社が独自に指数化しております。
- 上記グラフは過去の実績を示したものであり将来の成果をお約束するものではありません。

## ● 騰落率

	1カ月	3カ月	6カ月	1年	設定来*
ファンド	2.24%	2.03%	2.50%	12.03%	99.11%
合成指数	2.31%	2.22%	2.82%	12.67%	121.38%

※ 騰落率を算出する基準価額は、信託報酬控除後です。

上記騰落率は、実際の投資家利回りとは異なります。

\* 設定来は2006年8月31日を基準とします。

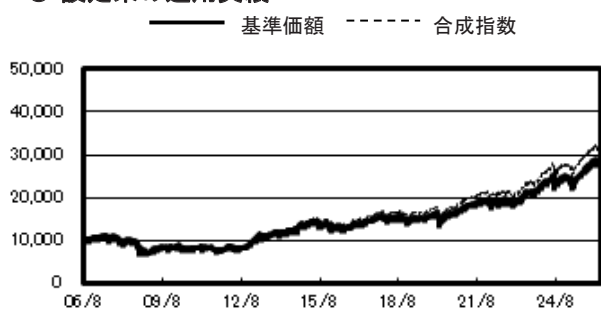
## ● マザーファンド組入比率

(2026年4月30日現在)

	ファンド	基本資産配分
国内株式	15.0%	15.0%
外国株式	10.0%	10.0%
株式合計	25.0%	25.0%
国内債券	39.8%	40.0%
外国債券	34.9%	35.0%
債券合計	74.7%	75.0%

## 【SMAM・バランスファンドVA50】

## ● 設定来の運用実績



- 基準価額は、2006年8月31日を10000とした指数として表示しております。
- 合成指数は、2006年8月31日を10000として、TOPIX(東証株価指数、配当込み)、NOMURA-BPI(総合)、MSCIコクサイインデックス(配当込み、円ベース)、FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)の日々の収益率を当ファンドの基本資産配分で加重平均し、当社が独自に指数化しております。
- 上記グラフは過去の実績を示したものであり将来の成果をお約束するものではありません。

## ● 騰落率

	1カ月	3カ月	6カ月	1年	設定来*
ファンド	4.58%	3.42%	5.71%	22.41%	189.14%
合成指数	4.62%	3.61%	5.93%	22.91%	224.96%

※ 騰落率を算出する基準価額は、信託報酬控除後です。

上記騰落率は、実際の投資家利回りとは異なります。

\* 設定来は2006年8月31日を基準とします。

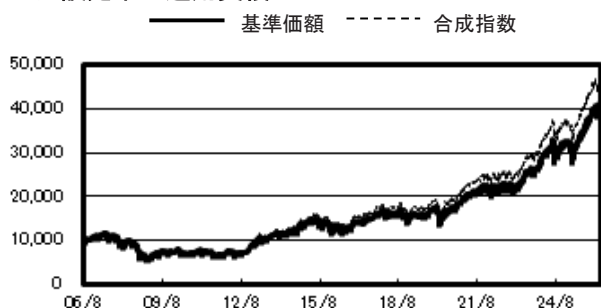
## ● マザーファンド組入比率

(2026年4月30日現在)

	ファンド	基本資産配分
国内株式	25.2%	25.0%
外国株式	25.8%	25.0%
株式合計	51.0%	50.0%
国内債券	23.8%	25.0%
外国債券	25.0%	25.0%
債券合計	48.7%	50.0%

## 【SMAM・バランスファンドVA75】

## ● 設定来の運用実績



- 基準価額は、2006年8月31日を10000とした指数として表示しております。
- 合成指数は、2006年8月31日を10000として、TOPIX(東証株価指数、配当込み)、NOMURA-BPI(総合)、MSCIコクサイインデックス(配当込み、円ベース)、FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)の日々の収益率を当ファンドの基本資産配分で加重平均し、当社が独自に指数化しております。
- 上記グラフは過去の実績を示したものであり将来の成果をお約束するものではありません。

## ● 騰落率

	1カ月	3カ月	6カ月	1年	設定来*
ファンド	6.96%	4.90%	9.11%	34.39%	307.78%
合成指数	7.08%	5.19%	9.58%	35.41%	370.41%

※ 騰落率を算出する基準価額は、信託報酬控除後です。

上記騰落率は、実際の投資家利回りとは異なります。

\* 設定来は2006年8月31日を基準とします。

## ● マザーファンド組入比率

(2026年4月30日現在)

	ファンド	基本資産配分
国内株式	34.9%	35.0%
外国株式	40.4%	40.0%
株式合計	75.3%	75.0%
国内債券	4.6%	5.0%
外国債券	19.6%	20.0%
債券合計	24.3%	25.0%

この保険のご留意いただきたい内容については、巻頭に「特別勘定運用レポートをご覧いただくにあたって」の記載がございますので、必ずご確認ください。

■このレポートは、三井住友DSアセットマネジメントが信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。■このレポートの内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、その正確性・完全性を保証するものではありません。■運用実績等に関するグラフ・数値等は過去の実績を示すものであり将来の運用成果をお約束するものではありません。■この資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者、許諾者に帰属します。

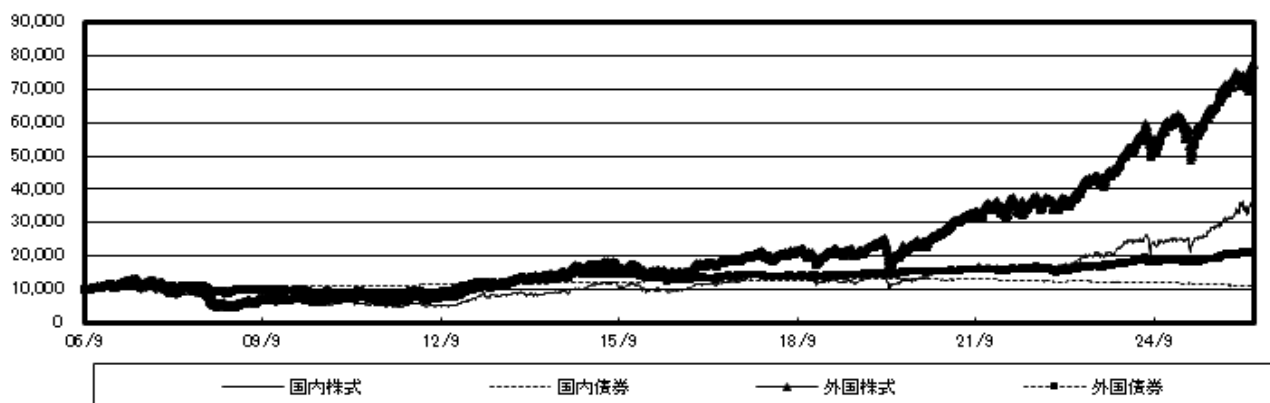


### 〈参考情報 SMAM・バランスファンドVA25、50、75〉

◎ SMAM・バランスファンドVA25、50、75は次のマザーファンドを主要投資対象とするファミリーファンド方式で運用されています。

- 国内株式 … 国内株式インデックス・マザーファンド(B号)
- 国内債券 … 国内債券パッシブ・マザーファンド
- 外国株式 … 外国株式インデックス・マザーファンド
- 外国債券 … 外国債券パッシブ・マザーファンド

### ● マザーファンドの基準価額の推移



- 各マザーファンドの基準価額は、2006年8月31日を10000とした指数として表示しております。
- 上記グラフは過去の実績を示したものであり将来の成果をお約束するものではありません。

### ● 騰落率

		1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来	
国内株式	ファンド	6.58%	5.62%	13.23%	43.11%	251.20%	*1…TOPIX(東証株価指数、配当込み)
	ベンチマーク*1	6.57%	5.56%	13.17%	43.01%	249.10%	*2…NOMURA-BPI(総合)
国内債券	ファンド	-0.63%	-1.07%	-4.61%	-6.47%	9.95%	*3…MSCIコクサイインデックス(配当込み、円ベース) MSCI Inc.が開発・公表する指数を三井住友DSアセットマネジメントが独自に円換算したものです。
	ベンチマーク*2	-0.63%	-1.04%	-4.61%	-6.51%	9.79%	
外国株式	ファンド	11.38%	6.15%	9.90%	44.07%	672.97%	*4…FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース) FTSE Fixed Income LLCの開発・公表する指数を三井住友DSアセットマネジメントが独自に円換算したものです。
	ベンチマーク*3	11.39%	6.19%	10.02%	44.38%	696.52%	
外国債券	ファンド	1.35%	3.06%	4.82%	16.13%	110.02%	※「シティ世界国債インデックス(除く日本、円ベース)」は、「FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)」に名称変更されました。 ※「Citigroup Index LLC」は、「FTSE Fixed Income LLC」に名称変更されました。
	ベンチマーク*4	1.35%	3.09%	4.86%	16.21%	112.15%	

※ 設定来は2006年8月31日を基準とします。

上記騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。

### ● マザーファンド純資産総額

(2026年4月30日現在)

	純資産総額(百万円)
国内株式	544,064
国内債券	141,173
外国株式	1,318,198
外国債券	215,058

この保険のご留意いただきたい内容については、巻頭に「特別勘定運用レポートをご覧くださいにあたって」の記載がございますので、必ずご確認ください。

■このレポートは、三井住友DSアセットマネジメントが信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。■このレポートの内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、その正確性・完全性を保証するものではありません。■運用実績等に関するグラフ・数値等は過去の実績を示すものであり将来の運用成果をお約束するものではありません。■この資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者、許諾者に帰属します。



## 〈参考情報 SMAM・バランスファンドVA25, 50, 75〉 マザーファンドの状況(2026年4月30日現在)

### 【国内株式】

マザーファンド名：国内株式インデックス・マザーファンド(B号)

#### ● 組入上位10銘柄

	銘柄名	比率
1	三菱UFJフィナンシャル・グループ	3.3%
2	トヨタ自動車	3.0%
3	日立製作所	2.3%
4	三井住友フィナンシャルグループ	2.2%
5	ソニーグループ	2.0%
6	三菱商事	2.0%
7	ソフトバンクグループ	1.9%
8	東京エレクトロン	1.8%
9	みずほフィナンシャルグループ	1.8%
10	三井物産	1.7%

※マザーファンド純資産総額対比 (組入全銘柄数 1,613)

#### ● 組入上位10業種

	業種名	比率
1	電気機器	19.5%
2	銀行業	10.8%
3	卸売業	8.4%
4	機械	6.7%
5	情報・通信業	6.4%
6	輸送用機器	5.5%
7	化学	4.7%
8	小売業	4.0%
9	医薬品	3.5%
10	保険業	3.3%

※マザーファンド現物株式評価額対比

### 【外国株式】

マザーファンド名：外国株式インデックス・マザーファンド

#### ● 組入上位10銘柄

	銘柄名	国名	業種	比率
1	NVIDIA CORP	アメリカ	半導体・半導体製造装置	6.2%
2	APPLE INC	アメリカ	テクノロジー・ハードウェア・機器	4.9%
3	MICROSOFT CORP	アメリカ	ソフトウェア・サービス	3.7%
4	AMAZON.COM INC	アメリカ	一般消費財・サービス流通・小売り	3.1%
5	ALPHABET INC-CL A	アメリカ	メディア・娯楽	2.5%
6	BROADCOM INC	アメリカ	半導体・半導体製造装置	2.2%
7	ALPHABET INC-CL C	アメリカ	メディア・娯楽	2.1%
8	META PLATFORMS INC-CLASS A	アメリカ	メディア・娯楽	1.8%
9	TESLA INC	アメリカ	自動車・自動車部品	1.3%
10	JPMORGAN CHASE & CO	アメリカ	銀行	1.0%

※マザーファンド純資産総額対比 (組入全銘柄数 1,133)

#### ● 国別投資比率

国名	比率
アメリカ	74.0%
イギリス	3.7%
カナダ	3.7%
スイス	2.7%
フランス	2.4%
その他	13.6%

※マザーファンド株式評価額対比

### 【国内債券】

マザーファンド名：国内債券パッシブ・マザーファンド

#### ● 債券種別構成

国債	81.0%
政府保証債	1.8%
地方債	7.6%
金融債	0.0%
事業債	8.5%
円建外債	0.0%
その他	1.1%

※マザーファンド債券評価額対比

#### ● 残存年限別構成

1年未満	1.4%
1-3年	20.5%
3-5年	18.9%
5-7年	11.8%
7-10年	17.5%
10年以上	29.8%

※マザーファンド債券評価額対比

#### ● 組入上位10銘柄

	銘柄名	比率
1	480 2年国債	2.0%
2	183 5年国債	1.4%
3	381 10年国債	1.3%
4	178 5年国債	1.3%
5	483 2年国債	1.1%
6	376 10年国債	1.0%
7	370 10年国債	1.0%
8	375 10年国債	1.0%
9	367 10年国債	1.0%
10	366 10年国債	0.9%

※マザーファンド純資産総額対比 (組入全銘柄数 460)

### 【外国債券】

マザーファンド名：外国債券パッシブ・マザーファンド

#### ● 通貨別構成

アメリカドル	45.6%
ユーロ	28.9%
中国元(オフショア)	12.4%
イギリスポンド	5.5%
カナダドル	2.1%
その他	5.4%

※マザーファンド債券評価額対比

#### ● 残存年限別構成

1年未満	0.1%
1-3年	30.1%
3-7年	33.6%
7-10年	14.0%
10年以上	22.2%

※マザーファンド債券評価額対比

#### ● 組入上位10銘柄

	銘柄名	通貨	比率
1	CHINA GOVERNMENT BOND 1.79 03/25/32	中国元(オフショア)	0.6%
2	CHINA GOVERNMENT BOND 3.72 04/12/51	中国元(オフショア)	0.6%
3	US TREASURY N/B 3.875 05/31/27	アメリカドル	0.5%
4	CHINA GOVERNMENT BOND 1.46 05/25/28	中国元(オフショア)	0.5%
5	CHINA GOVERNMENT BOND 1.62 08/15/27	中国元(オフショア)	0.5%
6	CHINA GOVERNMENT BOND 1.44 09/15/27	中国元(オフショア)	0.5%
7	US TREASURY N/B 4.25 05/15/35	アメリカドル	0.4%
8	US TREASURY N/B 4.625 02/15/35	アメリカドル	0.4%
9	CHINA GOVERNMENT BOND 2.4 07/15/28	中国元(オフショア)	0.4%
10	US TREASURY N/B 3.875 08/15/34	アメリカドル	0.4%

※マザーファンド純資産総額対比 (組入全銘柄数 943)

この保険のご留意いただきたい内容については、巻頭に「特別勘定運用レポートをご覧いただくにあたって」の記載がございますので、必ずご確認ください。

## ファンドの主な特徴

当ファンドは、アンダーライニング・ファンド<sup>①</sup>への投資を通して、米国株式と米国債券を実質的な主要投資対象とします。

- ① 主に米国の株式と債券に分散投資を行います。
- ② 市場環境に応じて株式と債券の投資比率を機動的に変更し、長期的に安定したトータル・リターン<sup>②</sup>の獲得を目指します。
- ③ 株式と債券のアナリストのリサーチ力を融合し、個別企業の調査・分析に基づき、魅力的な投資機会を追求します。

\* 当ファンドのアンダーライニング・ファンドは、ジャナス・ヘンダーソン・キャピタル・ファンド ジャナス・ヘンダーソン・バランス・ファンドです。

基準価額 (2026年4月30日現在) 65,478円

基準価額の推移 (2026年4月30日現在)



運用実績 (2026年4月30日現在)

	1カ月	3カ月	6カ月	1年	設定来
ファンド	4.82%	1.53%	2.33%	28.35%	554.78%

当ファンドの基準価額と運用実績は管理報酬等控除後のものです。

ファンドの概要 (2026年3月31日現在)

形態	アイルランド籍オープンエンド契約型外国投資信託
設定日	2005年7月1日
純資産総額	11,055百万米ドル
保有銘柄数	698銘柄

株式組入上位5銘柄 (対組入株式時価総額) (2026年3月31日現在)

銘柄	業種 <sup>*1</sup>	比率 <sup>*4</sup>
エスビディア	情報技術	9.01%
アルファベット	コミュニケーション・サービス	6.23%
マイクロソフト	情報技術	5.83%
アップル	情報技術	5.02%
アマゾン・ドット・コム	一般消費財・サービス	4.47%
上位5銘柄の合計		30.56%

社債組入上位5銘柄 (対組入債券時価総額) (2026年3月31日現在)

銘柄	利率 <sup>*2</sup>	満期(年/月/日)	業種 <sup>*3</sup>	比率 <sup>*4</sup>
バンク・オブ・アメリカ	5.744%	2036/02/12	銀行	0.69%
シティグループ	4.503%	2031/09/11	銀行	0.57%
アンテロ・リソーシズ	5.400%	2036/02/01	エネルギー	0.55%
CBREサービスズ	5.950%	2034/08/15	景気循環消費財	0.54%
SV・RNO・プロパティ・オーナー・ワン	5.875%	2031/03/01	テクノロジー	0.52%
上位5銘柄の合計				2.87%

地域別構成比率 (2026年3月31日現在)

地域	比率
北米	95.15%
ヨーロッパ	1.79%
アジア・太平洋	—
その他	3.06%

- \*1 業種は、GICS(世界産業分類基準)に基づきます。  
 \*2 割引債など利率が無い銘柄は「-」で表示しています。  
 \*3 業種は、ブルームバーグ債券インデックスの分類に基づきます。  
 \*4 小数点以下第3位で四捨五入して表示しているため、合計は必ずしも一致しません。

資産別構成比率 (2026年3月31日現在)

資産別	比率
株式	63.50%
国債	2.21%
政府関連債	—
モーゲージ債等	14.65%
投資適格社債	9.76%
ハイイールド債	3.54%
その他	5.85%
現預金等	0.49%

株式組入上位5業種<sup>\*1</sup> (対組入株式時価総額) (2026年3月31日現在)

業種	比率
情報技術	32.20%
金融	14.59%
ヘルスケア	12.10%
コミュニケーション・サービス	11.89%
一般消費財・サービス	10.47%

## 運用コメント

(2026年3月31日現在)

【市場概況】3月の米国株式市場は下落しました。上旬から中旬は、中東における軍事衝突を背景に投資家のリスク回避姿勢が強まり、米国株式市場は下落しました。原油価格の上昇によるインフレ再燃への警戒や、米連邦準備制度理事会(FRB)の利下げ観測の後退も逆風となりました。下旬は、米国とイランの停戦交渉が難航すると警戒から一時的に大きく下落しましたが、軍事衝突が終結に向かうとの見方が浮上し、月末に小反発しました。米国債券市場では、長期金利が上昇しました。上旬は、中東における軍事衝突を背景に原油価格が上昇し、インフレ再燃が意識された中、長期金利が上昇しました。中旬も、原油先高値や米連邦公開市場委員会(FOMC)にて金利据え置きが決定され、利下げ期待が後退したことから、10年国債利回りは上昇基調で推移しました。下旬は、米国とイランの停戦交渉がプラス材料となったものの、交渉難航が予想され、利回り低下は限定的でした。

【運用概況】当月の当ファンドのリターンは米ドルベースでマイナスとなりました。株式部分では、エネルギー・セクターがプラスに寄与した一方、それ以外のセクターはマイナスに寄与し、特に情報技術やヘルスケア・セクターが大きくマイナスに影響しました。債券部分では、幅広い債券種別のリターンが軟調に推移した中、国債や投資適格社債が大きくマイナスに寄与しました。

【運用方針】米国株式市場では、中東における軍事衝突や原油価格の上昇、インフレ再燃への警戒などを受けて、変動性が高まっています。しかし、現時点では、これらの要因は米国の長期的な成長を根本的に損なうものではなく、引き続き、堅調な設備投資、継続的な生産性向上、強固な個人消費が米国経済を支えると見ています。データセンター建設などのAIインフラ投資は引き続き堅調で、テクノロジー投資による企業の生産性向上が利益成長を後押しすると期待されます。その一方で、AIによる既存ビジネス破壊への懸念が無差別な売りを呼び、利益見通しが改善している成長株が売られる一方で、利益見通しが悪化しているディフェンシブ株が買われています。このような市場の歪みはしばらく続く可能性があります。中長期的には、相対的に成長株の魅力が高まっていると考えます。債券市場においては、中東情勢の緊迫化により、エネルギー価格やインフレを巡る不透明感が高まり、FRBの金融政策を巡る不確実性が変動要因となっています。しかし、企業ファンダメンタルズが引き続き、堅調であることや、高水準のインカムを確保したい投資家からの需要、社債の割高感が緩和していることを背景に、証券化商品および社債には魅力的な投資機会があると見ています。現在のような変動性の高い環境においては、インカムが価格下落時のクッションとして作用すると考えます。今後も機動的に資産配分を調整し、良好なリスク調整後リターン<sup>②</sup>の獲得を目指す方針です。

上記運用コメントは実質的な運用を行うアンダーライニング・ファンドに係る説明を含みます。当資料は作成時点の見解であり、将来の市場環境の変動等により上記運用方針が変更される場合があります。

「基準価額」、「基準価額の推移」、「運用実績」、「ファンドの概要」のうち「形態」および「設定日」を除く情報は、アンダーライニング・ファンドのものであります。

当資料中の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、提供された情報の正確性、完全性、適時性について保証するものではなく、それを使用したことによる結果について何ら保証するものではありません。当資料中の情報は、示された日付現在までのみ更新されたものです。いかなる分析、意見、試算、または予測についても、予告なくこれを変更することがあります。当資料は、ファンドの運用状況の情報提供を目的に、ジャナス・ヘンダーソン・インベスターズ・ヨーロッパ・エスエーが作成したものであり、有価証券についての投資助言または有価証券の売買の募集・勧誘をするものではありません。

特別勘定の名称：グローバル不動産投信

## ジャナス・グローバル・リアルエステート・ファンド

## ダブルウィング

## ファンドの主な特徴

当ファンドは、アンダーライニング・ファンド<sup>※</sup>への投資を通して、世界の不動産関連証券を実質的な主要投資対象とします。

- ① 主に世界のREIT(不動産投資信託)および不動産関連株式に投資します。
- ② 安定した配当収益の獲得と、長期(5年以上)にわたる証券価格の上昇を目指します。
- ③ 世界経済の構造的変化を捉え、成長性が高いと判断する業種や銘柄を見極め、投資します。

\* 当ファンドのアンダーライニング・ファンドは、ジャナス・ヘンダーソン・キャピタル・ファンド ジャナス・ヘンダーソン・グローバル・リアルエステート・エクイティ・インカム・ファンドです。

基準価額 (2026年4月30日現在) 35,808円

## 基準価額の推移 (2026年4月30日現在)



## 運用実績 (2026年4月30日現在)

	1カ月	3カ月	6カ月	1年	設定来
ファンド	7.31%	8.18%	10.93%	27.49%	258.08%

当ファンドの基準価額と運用実績は管理報酬等控除後のものです。

## 地域別構成比率 (2026年3月31日現在)

(対組入証券時価総額)	比率
北米	75.35%
アジア・太平洋	16.39%
ヨーロッパ	8.26%
その他	—

## 種別構成比率 (2026年3月31日現在)

(対組入株式時価総額)	比率
米国REIT	75.35%
非米国REIT	23.02%
米国不動産関連株式	—
非米国不動産関連株式	1.63%

REIT組入上位5業種<sup>\*1</sup> (2026年3月31日現在)

(対組入株式時価総額)	比率
店舗用REIT	25.94%
ヘルスケアREIT	18.10%
工業用REIT	17.13%
その他の専門REIT	7.54%
データセンターREIT	7.09%

\*1 業種は、GICS(世界産業分類基準)に基づきます。

\*2 小数点以下第3位で四捨五入して表示しているため、合計は必ずしも一致しません。

## 運用コメント

(2026年3月31日現在)

**【市場概況】** 3月の世界のREITおよび不動産関連株式市場は前月末比で下落しました。米国市場は下落しました。上旬は、中東情勢の緊迫化を受けてリスク回避の動きが強まり、下落しました。また、2月の米雇用統計の悪化も重しとなりました。中旬も、中東情勢を注視する展開となる中、米連邦準備制度理事会(FRB)の利下げ観測が後退したことを受けて続落しました。下旬は、中東での戦闘長期化への懸念から一段と下落した後、長期金利の上昇一服が好感され、値を一部戻しました。欧州市場も下落しました。地理的に中東に近くエネルギー輸入への依存度も高いことから、中東からの原油供給の制限によるインフレ再燃の潜在的な影響が意識され、市場の重しとなりました。国・地域別では、すべての国・地域が下落し、中でも英国やオーストラリアが大きく下落しました。業種別では、データセンターREITを除くすべての業種が下落し、中でも不動産運営会社やヘルスケア施設が大きく下落しました。

**【運用概況】** 当月の当ファンドのリターンは米ドルベースでマイナスとなりました。米国やオーストラリアを中心に、すべての国・地域がマイナスに影響しました。業種別では、データセンターREITを除くすべての業種がマイナスに影響しました。特に、店舗用REITや工業用REITは大きくマイナスに影響しました。

**【運用方針】** マクロ経済の先行きには不透明感があるものの、世界のREITおよび不動産関連株式市場の中長期的なファンダメンタルズは健全であると見ています。質の高い物件に対する需要は引き続き底堅く、新規供給の減少と相まって不動産所有者の価格決定力の向上につながっており、安定した賃料収入の創出環境は維持されていると考えます。

こうした環境下、当ファンドでは、強固なバランスシートと優れた経営陣を有し、質の高い物件を通じて安定的なキャッシュフローと配当が見込める銘柄を優先して見ます。具体的には、AI(人工知能)およびクラウドコンピューティング需要の急増を背景としたデータセンター、来店型消費の回復を背景に新規賃貸が継続的に改善している店舗用不動産、高齢化を背景に中長期的な需要が見込まれるシニア向け住宅は、景気変動や金利動向の影響を相対的に受けにくく、賃料や稼働率の改善を通じた持続的な収益成長が期待できる点を評価しています。今後も徹底したボトムアップ・リサーチにより、魅力的な投資機会の発掘に注力していく方針です。

上記運用コメントは実質的な運用を行うアンダーライニング・ファンドに係る説明を含みます。当資料は作成時点の見解であり、将来の市場環境の変動等により上記運用方針が変更される場合があります。

「基準価額」、「基準価額の推移」、「運用実績」、「ファンドの概要」のうち「形態」および「設定日」を除く情報は、アンダーライニング・ファンドのものであります。

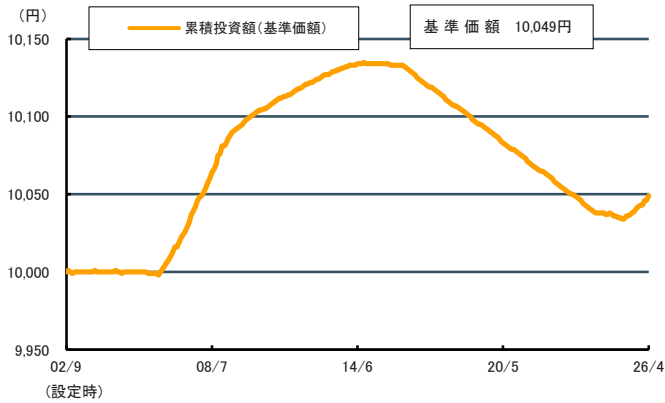
当資料中の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、提供された情報の正確性、完全性、適時性について保証するものではなく、それを使用したことによる結果について何ら保証するものではありません。当資料中の情報は、示された日付現在までのみ更新されたものです。いかなる分析、意見、試算、または予測についても、予告なくこれを変更することがあります。当資料は、ファンドの運用状況の情報提供を目的に、ジャナス・ヘンダーソン・インベスターズ・ヨーロッパ・エスエーが作成したものであり、有価証券についての投資助言または有価証券の売買の募集・勧誘をするものではありません。

この保険のご留意いただきたい内容については、巻頭に「特別勘定運用レポートをご覧くださいにあたって」の記載がございますので、必ずご確認ください。

◆本邦通貨表示の公社債等を主要な投資対象とし、安定した収益の確保を図ることを目的として運用を行いません。

商品概要	
形態	追加型投信／国内／債券
投資対象	本邦通貨表示の公社債等
設定日	2002年9月20日
信託期間	原則無期限
決算日	原則、毎年11月30日(休業日のときは翌営業日)

設定来の運用実績 (2026年4月30日現在)



※累積投資額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの収益分配金を再投資した実績評価額です。ただし、購入時手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。  
 ※当ファンドは、ベンチマークを設定していません。  
 ※基準価額は運用管理費用控除後のものです。  
 ※当該実績は過去のものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

純資産総額	57.5 億円	(2026年4月30日現在)
-------	---------	----------------

累積リターン (2026年4月30日現在)

	直近1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
ファンド	0.03%	0.06%	0.08%	0.15%	0.00%	0.49%

※累積リターンは、収益分配金を再投資することにより算出された収益率です。

過去5期分の収益分配金(1万口当たり／税込)	
第20期(2021.11.30)	0円
第21期(2022.11.30)	0円
第22期(2023.11.30)	0円
第23期(2024.12.02)	0円
第24期(2025.12.01)	0円

組入上位10銘柄 (マザーファンド・ベース) (2026年3月31日現在)

	銘柄	種類	格付	比率
1	1366国庫短期証券 2026/06/08	債券	A	27.2%
2	1362国庫短期証券 2026/05/18	債券	A	23.8%
3	1353国庫短期証券 2026/04/06	債券	A	22.2%
4	1368国庫短期証券 2026/06/15	債券	A	12.2%
5	1355国庫短期証券 2026/04/13	債券	A	6.8%
6	1364国庫短期証券 2026/05/25	債券	A	4.3%
7	-	-	-	-
8	-	-	-	-
9	-	-	-	-
10	-	-	-	-

(組入銘柄数：6) 上位10銘柄合計 96.5% (対純資産総額比率)

ポートフォリオの状況 (マザーファンド・ベース) (2026年3月31日現在)

資産別組入状況

債券	96.5%
CP	-
CD	-
現金・その他	3.5%

組入資産格付内訳

長期債券格付	AAA/Aaa	-
	AA/Aa	-
	A	96.5%
短期債券格付	A-1/P-1	-
	A-2/P-2	-
現金・その他		3.5%

平均残存日数	45.65日
平均残存年数	0.13年

格付は、S&P社もしくはムーディーズ社による格付を採用し、S&P社の格付を優先して採用しています。「(プラス/マイナス)」の符号は省略しています。なお、両社による格付のない場合は、「格付なし」に分類しています。

(対純資産総額比率)

\* 各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。

当資料は、情報提供を目的としたものであり、ファンドの推奨(有価証券の勧誘)を目的としたものではありません。本資料に記載の内容は将来の運用結果等を保証もしくは示唆するものではありません。当資料は、信頼できる情報をもとにフィデリティ投信が作成しておりますが、厳密な意味での正確性・完全性について当社が責任を負うものではありません。上記情報は、作成時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。



この保険のご留意いただきたい内容については、巻頭に「特別勘定運用レポートをご覧くださいにあたって」の記載がございますので、必ずご確認ください。

募集代理店

**PRESTIA**

株式会社SMBC信託銀行

引受保険会社

**三井住友海上プライマリー生命保険株式会社**

〒103-0028 東京都中央区八重洲 1-3-7 八重洲ファーストフィナンシャルビル

資料請求・お問い合わせ

フリーダイヤル 0120-125-104

<https://www.ms-primary.com>